

# 調達価格等算定委員会（第109回） 議事要旨

## ○日時

令和7年12月16日（火）15時30分～16時56分

## ○場所

オンライン会議

## ○出席委員

秋元圭吾委員長、安藤至大委員、岩船由美子委員、大石美奈子委員、松村敏弘委員

## ○オブザーバー

農林水産省、国土交通省、環境省、消費者庁

## ○事務局

日暮新エネルギー課長

## ○議題

地熱発電・中小水力発電・バイオマス発電・太陽光発電について

## ○議事要旨

### 委員

#### <総論>

- ・ 事務局案に賛成。
- ・ 来年度の事業者へのヒアリングにおいては、どのような取組ができれば一定の進捗があったと評価されるのか、具体的に設定いただきたい。
- ・ FIT・FIP 設備であってもなくても廃棄は生じ、FIT・FIP 制度では廃棄費用の積立が行われているが、支援から外れれば、太陽光パネルなどの廃棄、リサイクルについて国が管理していくことがさらに重要になる。早急に検討を進めていただきたい。

#### <地熱発電について>

- ・ 事務局案に賛成。
- ・ 今後コスト低減が見込めるかが重要。インフレが進行しているとはいえ、自立化に向かっていなければ支援対象として不適切ではないか
- ・ 特に小規模地熱発電事業者において、自立化に向けてどのような努力等を行っているのかはしっかりと説明いただきたい。

- ・ 今までは事業者で負担していたコストを JOGMEC が負担することによりその結果として事業が成り立つようになったということになれば、これまで議論してきた自立化とは違うのではないか。JOGMEC のコストも見て判断する必要がある。

#### <中小水力発電について>

- ・ 事務局案に賛成。
- ・ 長期稼働が可能というメリットはあるが、コストが高くとも導入する必要があるのか、自立化につながるのか、人口が減少していく中で長期的に維持可能かという点について整理する必要あり。
- ・ これまでの業界団体の説明でも努力の方向性が見えづらかったため、自立化に向けた事業者の努力をお伺いしたい。

#### <バイオマス発電について>

- ・ 事務局案に賛成。
- ・ どのような設備でどのような社会的意義があるかという観点から、電力の使用者が負担すべきか、広く全般的な税金で賄うべきかという論点が重要。

#### <太陽光発電について>

- ・ 今後は、自立を前提として、その上で正の外部性がある時には追加で支援が必要なケースもあり得るのではないか。
- ・ 社会的コストや環境コストも踏まえ、どのようなものが社会的に望ましく、どのような支援が必要か、議論を丁寧に行っていく必要がある。
- ・ 新しく支援なしに設置される設備を管理していくということが今後重要になってくる。コストに関する情報を含めてデータを継続的に取れる仕組みを維持してほしい。
- ・ 地域住民との共生をしっかりと行っていくことのできる太陽光もあると思われることから、中長期的に再エネを広げていくという観点では今後の支援区分については慎重な検討をしていく必要あり。
- ・ 屋根設置型は、地域共生の観点では地上設置型よりも相対的に問題が起きにくいと思うが、今後問題が多く起これば支援対象から外すことも原理的にはあり得るということ認識すべき。
- ・ FIT/FIP の対象外ということになれば、太陽光パネルの廃棄やリサイクルについて国としてもしっかり取り組んでいくことが重要になると思うので、その検討を進めていただきたい。

### 事務局

- ・ 自立化の取組について、どのような説明を求めるのかという点を明確化するという観点から検討したい。
- ・ 地熱発電について、JOGMEC によるリスクテイクと FIT・FIP 制度における支援とを合わせた形での自立化を最終的に目指していく姿と捉え、議論を深めていきたい。
- ・ 事業用太陽光について、経済産業省として、地域との共生が図られた形で導入拡大を最大限進めていく方針に全く変わりはない。地上設置の太陽光発電については、価格の低減が進んでいるなか、自立化の時期をかねてより議論してきたところ。価格の低減状況、地域との共生上の外部不経済性が起こりうるという指

摘も勘案した上で、来年度及び 2027 年度以降の取扱いについて本委員会で整理し、議論を進めていきたい。

- ・ FIT・FIP 制度から外れた後は、公益調整を行う関係法令において規律されている。FIT・FIP 制度でも遵守を要件とすることで取り組んでいるが、制度外の事業も関係法令に服するのは同じ。制度に依らない太陽光発電の管理の在り方、データの在り方について、引き続き考えていきたい。
- ・ 適切なリサイクルをどう進めるかは重要な課題。関係法令と連携しつつ、制度設計を含めて進めていきたい。

## **委員長**

- ・ 地熱発電、中小水力発電、バイオマス発電、太陽光発電について、事務局提案に基本的に異論はなかった。
- ・ 太陽光発電については、議論いただいた方向性を踏まえて、事務局には具体的な方針を検討いただき、1月の調達価格等算定委員会において改めて議論こととしたい。